

平成18年度外国籍県民県政モニター第1回アンケート結果(概要)

平成18年度外国籍県民県政モニター第1回アンケートの結果がまとまりました。調査内容は、県内市町村からの提案を踏まえて、「1 日本人との交流や他の外国人との交流について」「2 県や市町村の行うイベントについて」「3 地域での活動について」「4 市町村に対する希望」「5 外国人に対する情報提供、外国人の情報入手手段について」「6 外国人の防災対策について」をテーマとしています。

調査結果の概要は、次のとおりです。

< 調査形態 >

- ・ 調査時期 平成18年9月
- ・ 調査方法 インターネット(アンケート専用フォームへの入力)及び郵送
・ FAXによる回答
- ・ モニター数 110人
- ・ 回収率 64.5%(回収数71人)

・ 回答者の属性(単位はすべて人)

【性別・年齢】

年齢	男性	女性	計
20～29	6	8	14
30～39	5	25	30
40～49	3	20	23
50以上	1	1	2
不明	1	1	2
計	16	55	71

【国籍】

国名	人数
中国	37
韓国・朝鮮	13
オーストラリア	3
ブラジル	3
アメリカ	2
タイ	2
ロシア	2
その他	9
計	71

ざいりゅうしかく
【在留資格】

ざいりゅうしかく 在留資格	にんすう 人数
えいじゅう 永住	29
えいじゅうしゃはいくうしゃ 永住者の配偶者	16
りゅうがくせい 留学生	11
じんぶんちしき 人文知識	6
かぞくたいざい 家族滞在	5
きょうじゅ 教授	2
とうしけいえい 投資・経営	1
ふめい 不明	1
けい 計	71

ちようさけつかみかた
< 調査結果の見方 >

- ・グラフの中の数字は、棒グラフでは回答人数、円グラフでは回答比率（％）です。
- ・回答比率（％）は小数点以下第1位を四捨五入したため、個々の比率の合計は100％にならないことがあります。
- ・回答比率（％）の基数は71（回収数）です。
- ・複数回答の質問については、回答人数の合計が回収数を超える場合があります。

おもちようさこうもくおよげつか
< 主な調査項目及び結果のポイント >

1 日本人との交流や他の外国人との交流について

【気軽に話したり相談することができる日本人がいるか（Q1）】

「いる」という回答が83％、「いない」という回答が17％である。

【日本人と交流する機会やイベントがあれば参加するか（Q2）】

「参加する」という回答が72％、「参加しない」という回答が14％である。「その他」（14％）では、「時間があれば参加する」「テーマによって参加するか決める」「時間と場所による」など、条件等により参加する意向がある人が多い。

【Q2で「参加する」または「その他」の場合、どのような交流・イベントに参加したいか（Q3）】

「気軽におしゃべりする」という回答が43人、「自分の国の文化や生活を紹介する」という回答が35人と多い。その他の回答では「特定のテーマがなくても参加しやすい交流会、パーティがあれば参加する」や逆に「テーマがあった方がいいと思う」という意見もあった。

【日本人と交流する機会や場所は必要と思うか(Q5)】

「必要」という回答が78%、「必要ではない」という回答が17%である。また、「機会や場所がなくて困っている」という回答は4%であった。

「必要」だと思ふ理由は、「日本で生活する以上は多くの日本人と交流すべき。日本文化の理解に役立つ」「困ったときに相談できる」「お互い理解し合うため」「日本での生活にもっと馴染みやすくするため」「日常生活の中で教えられることや助けられることはあると思う」「友だちを作りたから」などの意見があった。

「必要ではない」と思ふ理由では、ほとんどが「学校、職場、近所付き合い、親戚付き合いなど、自然と交流することになる」というような意見であった。

2 県や市町村の行うイベントについて

【県や市町村のイベントなどに参加したことがあるか(Q9)】

「ある」という回答が61%、「参加したことはないが、してみたい」という回答が32%で、「参加したことがないし、したくない」が4%となっている。

【Q9で「参加したことがある」と答えた人が、県や市町村が行うイベントなどの情報をどこから知ったか(Q10)】

最も多かったのが「県や市町村の広報紙」(32人)、次いで「友だちや知り合い」という回答が21人と多い。次いで「ちらし」という回答が14人、「イベントのポスター」が13人と比較的多い。

「その他」として、「県のサイト」「大学の掲示、学校」「回覧板」「日本語教室」などの回答があった。

【イベントなどに参加するときに困ったことや困ると思うこと(Q12)】

「積極的に話してくれる日本人が少ない」「一人で参加しづらい」「話題が見つからない」「初めて会うのに私的なことをいっぱい聞かれること」「日本人はグループ好きで、そのグループに入りにくい」「事前に情報が入らない」「ちらしの日本語情報が難しい」などの意見があった。

3 地域での活動について

【日本語教室への参加について(Q13)】

「参加したことがない」という回答が51%で、「参加している、または参加したことがある」という回答が49%となっている。

【日本語教室以外の、地域で活動するサークルに参加しているか(Q14)】

「参加していない」と回答した人が37人、「参加している」と回答した人が27人であった。

「参加している」サークルは、語学、スポーツ、料理その他趣味のサークルが多い。

【県や市町村の施設で、利用しているものは何か(Q16)】

「図書館」と回答した人が56人と最も多く、次いで「公園」(55人)、「公民館・コミュニティセンター」(49人)が多い。

【地域で何かの活動をしているか(Q18)また、活動している人が地域に溶け込むために努力したことは何か(Q19)】

地域で何かの活動を「している」人は56%、「していない」人は44%である。

また、活動している人が地域に溶け込むために努力したことは、「地域のイベントに参加した」、「近所の人たちと交流した」人がそれぞれ25人と多く、次いで「日本語を勉強した」(21人)、「国際交流を行っている施設に行くようにした」(17人)となっている。

「その他」として、「町内会の持ち回りの仕事(清掃等)を極力行うようにした」や「母国語の教室の開催」等の回答があった。

【日本での生活の中で困っていることは何か(Q20)】

「家を借りるとき、外国人ということで借りることができない」「日本の文化と習慣を理解することが難しい」「国籍等に関して相談する場所がわからない」「やりたい仕事に就けなくて悩む」「いい専門の病院、先生を知りたい」「日本の学校の情報をもりたい」「友だちが少ない」などである。

4 市町村に対する希望について

【市町村や市町村の国際交流協会に希望することは何か(Q21)】

「子育てについて、相談の機会を設けたり、施策を考えてもらいたい」「日本語の言葉だけでなく、日本の歴史などを紹介する講座や機会を企画したり紹介してほしい」「日本の生活で間違いやすいことについて説明してほしい」「外国人に対する行政サービスの宣伝をもっとしてほしい」などの希望が出されている。

5 外国人に対する情報提供、外国人の情報入手手段について

【生活ガイドを持っているか。どこでもらったか(Q22)】

「はい(持っている)」と回答した人が56%である。

「もらったところ」は、「市役所」「県」「職場」「学校」「入国管理局」であった。

【県や市町村で作る生活ガイドに入れた方がよいと思う情報は何か(Q23)】

「基本的に日本人ももらう情報：安全、健康、子ども、教育、住宅等の関係」「日常生活情報」「年金、健康保険などの基本知識」「育児支援情報や医療関係情報など」「災害時の案内(避難場所)」「日本語教室など、外国人向けの活動ガイド」「法律相談、国籍問題や出入国管理に関する情報」「施設情報や公的機関の地図

情報」などであった。

【県や市町村から生活に必要な情報を手に入れることができるか(Q25)】

「十分にできている」(25%)及び「ほぼできている」(49%)を合わせて「できている」という回答が74%となっている。

「十分とは言えない」(25%)、「まったくできていない」(1%)の理由として、「急に病院に行きたい場合、どんな病院がいいかわからない」「国籍の問題や入国管理に関する情報が足りない」「日本語を読むことは時間がかかる。外国語のお知らせをもらいたい」「子どもの不登校や進路といったタイムリーな問題を解決するための情報が必要」「インターネットで情報を提供してほしい」などの意見があった。

6 外国人防災対策について

【災害が起きたときに、どこに逃げたらよいか知っているか(Q26)】

「知っている」という回答が68%、「知らない」という回答が31%である。

「知っている」と回答した人が「何で知ったか」については、「避難所の表示や市から配布されるチラシ」「子どもの学校からの手紙」「市の広報」「仕事の人に教えてもらった」などであった。

【地域で行われる防災訓練に参加したいか(Q27)】

「参加したい」という回答が79%、「参加したくない」という回答が20%であった。

「参加したくない」理由としては、「災害が起きても自分でなんとかできると思うから」「時間がない、説明書があればいいと思う」「日本語がよくわからない」という意見があった。

【外国人が防災訓練に参加しやすくするために、県や市町村は何をしたらよいか(Q28)】

「外国人まで届くお知らせと通訳」など、外国人への周知・十分な広報が必要であるという意見や通訳ボランティア等の必要性を指摘する意見が多い。実施する曜日については、就労等の状況により様々であり、「回数を増やすべき」という意見もあった。また、「外国人が気軽に参加できるような、イベント的な楽しい工夫が必要」という意見もあった。

調査結果(グラフ資料等)については、つぎのホームページでご覧になれます。
(県国際課ホームページ)

<http://www.pref.saitama.lg.jp/A02/BQ00/gaikokumonitor.htm>